

SRS220 Bluetooth® SRS210

取扱説明書



お買い上げいただき、ありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

- このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。
- 本体背面に貼ってある“証明ラベル”を剥がしたり、分解や改造を行うことは法律で禁止されています。
- 他人の会話を聞いて、会話の内容を漏らしたり窃取することは法律で禁止されています。



付属品

- トランシーバー本体
- ベルトクリップ（取付け用ビスも含む）
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

防水性能について

本機は、IEC 国際規格 IP68 相当（防塵等級 6^{*1}、防水等級 8^{*2}）の防塵、防水性能を有しています。この性能を永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ボタンのラバー、SP/MIC 端子のラバー、底面フタなどに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- 海水砂泥などが付いた時は、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。

○ 本機は、水中での使用はできません。

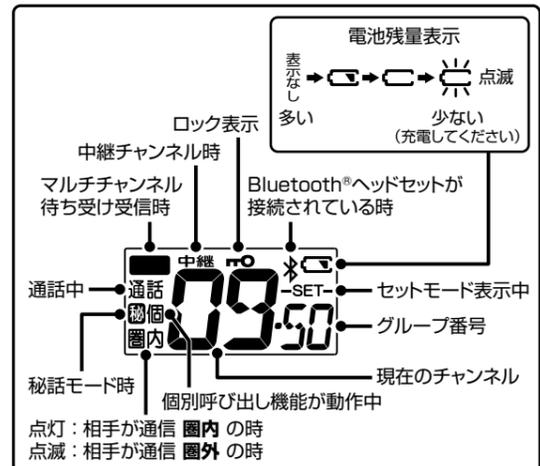
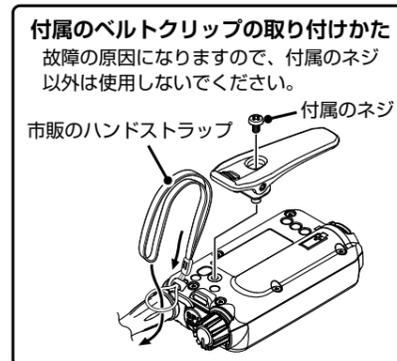
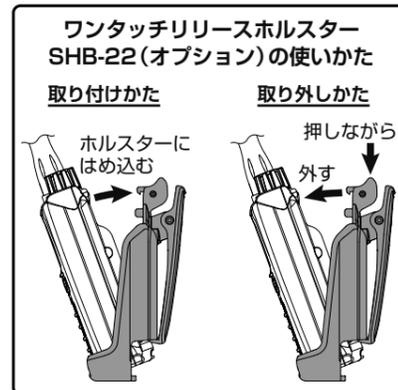
※ 1：粉塵が内部に侵入しない。

※ 2：水深 1.5m に 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

正しくご使用いただくために

- 本機にヘッドセットやマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正オプションを使用してください。当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- オプションのニッケル水素電池“SBR-17MH”を充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。
- 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- トランシーバーを分解・改造することは電波法で禁じられています。
- 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- トランシーバー内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

各部の説明



SP/MIC ジャック

オプションのスピーカーマイクなどを接続します。
● 使用しない時は本機の防塵・防水性能を保つため、ラバーキャップをしっかりと取り付けてください。

LED インジケータ

送信：赤点灯
受信：緑点灯
CUE 受信：オレンジ点滅

PTT (通話) スイッチ

送信するときに押します。

[On▼] ボタン

運用チャンネルをダウン方向に切り替えます。
押しながら電源を入ると [On▼]/[CUE]/[▲SET] ボタンを押しても動作しないようにロックします。
もう一度押しながら電源を入るとロックは解除されます。

電源 / 音量ツマミ

右にまわして電源を入れて、聞きやすい音量に調節します。
電源を切るときは“カチッ”というまで左にまわします。

[CUE] ボタン

受信側の音量が下がっていても、設定音量でアラームを鳴らして緊急連絡や重要案件の通知を行います。

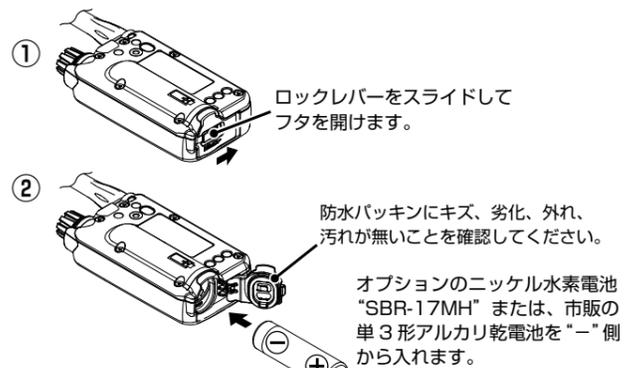
[▲SET] ボタン

運用チャンネルをアップ方向に切り替えます。
押しながら電源を入ると、機能設定 (セットモード) が行えます。

マイク

スピーカー

電池の入れかた



- ③ “カチッ”と音がするまでフタを押し込んで閉めます。
- オプションのニッケル水素電池“SBR-17MH”の充電のしかたは、オプションの急速充電器“SAD-3915A”の取扱説明書をご覧ください。
 - 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池“SBR-17MH”またはアルカリ乾電池を取り外してください。
 - 電池を交換する時は必ず電源を切ってください。
 - オプションのニッケル水素電池“SBR-17MH”または市販の単 3 形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になる場合があります。

■ 使用時間の目安

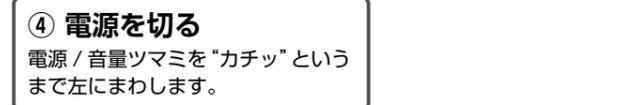
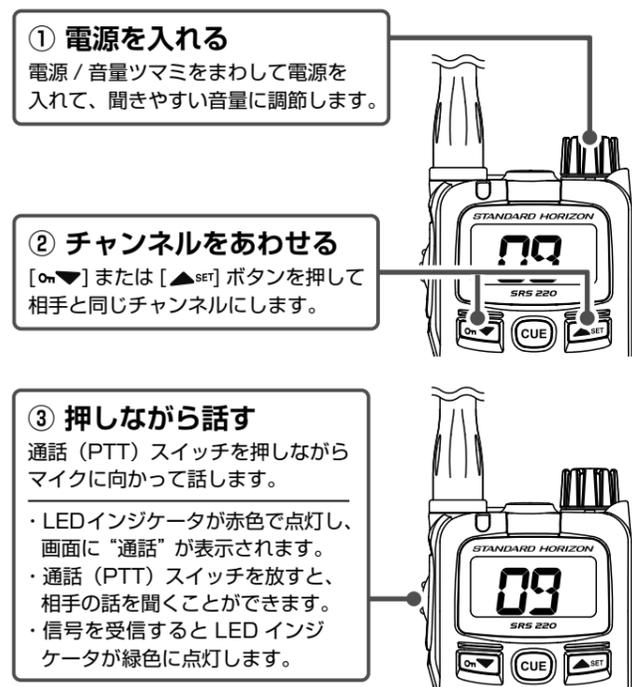
ニッケル水素電池“SBR-17MH” 約 36 時間*
アルカリ乾電池 約 33 時間*

※ 送信 6 秒、受信 6 秒、待ち受け 48 秒、LED インジケータ設定はオフの測定条件です。

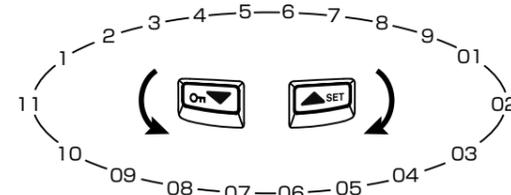
使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使いかたや周囲の温度などによって異なります。

電池の残量は画面にアイコンで表示されます。“各部の説明”の“電池残量表示”を参照してください。

基本的な通話のしかた (ノーマルモード)



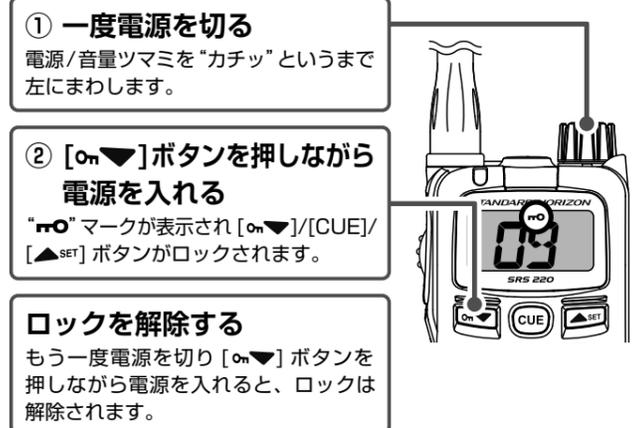
○ ▲または▼ボタンを押すと、チャンネルは下記のように変わります。



- 連続して送信できる時間は 3 分以内で、その間は画面に“通話”が表示されます。
- 3 分間連続して送信し続けると送信は自動的に停止します。送信が停止する 30 秒前になると、画面に数字でカウントダウン表示され、送信が停止する 10 秒前には、“ピピッ”と警告音が鳴ります。なお、送信が停止した場合、その後の 2 秒間は通話 (PTT) スイッチを押しても警告音が鳴り送信できません。
- 相手の信号を受信している時は送信できません。画面に“受信”が表示されている時は、通話 (PTT) スイッチを押しても「ブープーッ」と警告音が鳴るだけで、送信できません。

[On▼][▲SET] ボタンを押してもチャンネルが変わらないようにする

[On▼] や [▲SET] ボタンが何かにぶつかり、チャンネルが変わってしまうトラブルを防ぐことができます。



ネクストギアーズ株式会社
東京オフィス 〒121-0064 東京都足立区保木間 4-25-4
TEL : 03-5831-0185 FAX : 03-5831-0186

大阪オフィス 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 4-5-19 1F
TEL : 06-4862-7203 FAX : 06-4862-7204

操作した時に鳴る音の音量調整

トランシーバーを操作をした時に鳴る「ビップ」というピーブ音の音量を調節できます。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [▲SET] ボタンを押して“BEEP”の表示にします。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [On▼] または [▲SET] ボタンを押してマイクの感度を選びます。



- 1/2/3 : 数値が大きくなるほど音量が大きくなります。
L1/L2/L3 : 数値が大きくなるほど音量が大きくなります。また音量調節ツマミに連動してピーブの音量も変わります。
OFF : ビープ音は鳴らなくなります。
6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。

Bluetooth® ヘッドセットを使う (SRS220 のみ)

SRS220 は、オプションの Bluetooth® ヘッドセット “SSM-BT10” を使用したワイヤレス通信が可能です。ヘッドセットの送信ボタンによる送信に加えて、話をするると自動的に送信状態になる “音声自動送信 (VOX) 機能” にも対応していますので、ケーブルが無い完全なハンズフリー運用ができます。

Bluetooth® ヘッドセットを使う

この設定は一度だけです。次回からはトランシーバーとヘッドセットの電源を ON にするだけで、自動で接続されます。

SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを 3 秒以上押し



赤と青の点滅になります

① 一度電源を切る

電源/音量ツマミを“カチッ”というまで左にまわします。

② [CUE] ボタンを押しながら電源を入れる

“SRCH”の表示になり“*”が点滅します。

③ 接続するヘッドセットを選ぶ

[On▼] または [▲SET] ボタンで選択します。



④ PTT (通話) ボタンを押す

トランシーバーとヘッドセットが接続されると表示します。

設定は完了です。

送信する時はヘッドセットのマルチファンクションボタンを押してください。もう一度押すと受信に戻ります。

VOX 機能を使用することによって、マルチファンクションボタンを押さなくても自動で送信することができます。

- 補足** ・VOX 機能を使用中は、マルチファンクションボタンを押すことで一時的に VOX 機能を ON/OFF することができます。OFF にした VOX 機能は、マルチファンクションボタンを押すか電源を入れ直すと再び ON になります。
・VOX 機能が一時的に OFF の時は “-” が表示されます。



画面の表示を消す

周りの人に使用しているチャンネルがわからないように、画面の表示を “-” にすることができます。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [▲SET] ボタンを押して“DISP”の表示にします。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “2” を選びます。



- ON : 常に画面は表示された状態になります。
2 : トランシーバーの操作が終わってから約 2 秒後に画面の表示が “-” になります。トランシーバーの操作を行うと再び画面が表示されます。



6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。

Bluetooth® ヘッドセットを使うのをやめる

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “BLTH” の表示にします。
“BLTH” が表示されない場合は “SETM” を表示させて “ALL” に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “OFF” を選びます。
再び Bluetooth® ヘッドセットを使いたい時は “ON” または “SAVE” を選びます。



ON : Bluetooth® 機能が動作し Bluetooth® ヘッドセットを使用できます。

SAVE : Bluetooth® 機能が動作し、更に Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を少なくすることができます。VOX 機能を使用する時は、話し始めの音声で途切れる場合がありますので、一呼吸おいてから話を始めてください。

OFF : Bluetooth® 機能は動作しません。

6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。

Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節する

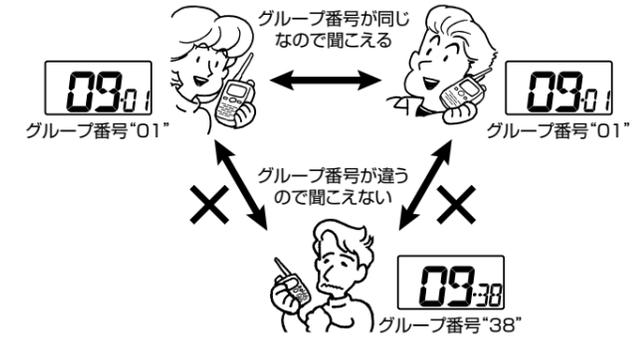
本機に接続した Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節できます。相手から「声が小さい」と言われた時は “感度を高く”、「声が大きい」「声が割れて聞こえる」などと言われた時は “感度を低く” します。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “BTMG” の表示にします。
“BTMG” が表示されない場合は “SETM” を表示させて “ALL” に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [On▼] または [▲SET] ボタンを押してマイクの感度を選びます。
=MG / 1 (感度低い) ~ 6 (感度高い)
(“=MG” はトランシーバーのマイクと同じ感度になります)
6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。



グループモードの設定

「同じチャンネルで他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時は、あらかじめ同じグループ番号を決めた “グループモード” にすると仲間同士の音声だけが聞こえます。



グループコードを設定する

仲間同士で同じグループコードにします。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. “GRP” の表示になりますので [CUE] ボタンを押します。
4. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “ON” の表示にします。
5. [CUE] ボタンを押して、続けて [▲SET] ボタンを押します。
6. “GRCD” の表示になりますので [CUE] ボタンを押します。
7. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して、仲間同士で決めたグループコード (GP01 ~ GP50) にあわせませす。
8. PTT (通話) スイッチを押して終了です。
グループコードが設定され、画面に表示されます。



“基本的な通話のしかた” と同様に通話します。

グループコードが不足した場合などは、108 種類の DCS コード (D017 ~ D754) を使用できます。上記の手順 7 で “D017 ~ D754” を選んでください。



グループモードをやめる

1. 上記と同じ操作を行い、手順 4 で “OFF” の表示にします。
2. PTT (通話) スイッチを押します。
ノーマルモードに戻ります。

音声で自動的に送信する (VOX 機能)

“音声自動送信 (VOX) 機能” を使用すると、話をするると自動的に送信状態になり、話をやめると自動的に受信状態に戻ることができます。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “VOX” の表示にします。
“VOX” が表示されない場合は “SETM” を表示させて “ALL” に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “2” を選びます。
1 ~ 7 : VOX 機能が動作します。“1” ~ “7” の数字は送信状態になる感度で、周囲の騒音が大きく話をしていないのに送信状態になる時は感度を下げて (設定の数値を小さく) ください。
OFF : VOX 機能は動作しません。
6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。



使われていないチャンネルを自動で探す (オートチャンネルセレクト機能)

PTT (通話) スイッチを押すと、使われていないチャンネルを自動で探して、そのチャンネルで通話を行います。

- 補足** ・相手のトランシーバも、オートチャンネルセレクト機能を ON にしてください。
・相手と同じグループコード (または DCS コード) に設定してください。

- 注意** ・個別呼び出し、中継用チャンネル、マルチチャンネル待受機能時は動作しません。
・オートチャンネルセレクト機能を “ON” にすると、スキャン機能、コールバック機能、ARTS 機能、エマージェンシー機能は “OFF” になります。

オートチャンネルセレクト機能を使えるようにする

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “ATCH” の表示にします。
“ATCH” が表示されない場合は “SETM” を表示させて “ALL” に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “ON” を選びます。



- ON : オートチャンネルセレクト機能を ON にします。
OFF : オートチャンネルセレクト機能を OFF にします。

6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。
画面のチャンネル表示が “AU” になります。



- 補足** PTT (通話) スイッチを押すと同時に、使用されていないチャンネルを自動で探しますので、PTT (通話) スイッチを押した後は、一呼吸おいてから話を始めてください。

オートチャンネルセレクト機能をやめる

1. 上記と同じ操作を行い、手順 5 で “OFF” の表示にします。
2. PTT (通話) スイッチを押します。
オートチャンネルセレクト機能が OFF になります。

サブチャンネルセレクト機能

選択したチャンネルが使用中の場合、あらかじめ仲間同士で決めたもう 1 つのチャンネル (サブチャンネル) に自動的に切り替わり通話できます。PTT (通話) スイッチを押した時、信号がない場合は通常チャンネルで通話を行います。通常チャンネルに信号があった場合は警告音が鳴りますが、そのまま PTT (通話) スイッチを押し続けると約 3 秒後にサブチャンネルに移行して送信します。相手もサブチャンネルに自動で移行しますので通話を行うことができます。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “SBCH” の表示にします。
“SBCH” が表示されない場合は “SETM” を表示させて “ALL” に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して “ON” を選びます。
ON : サブチャンネルセレクト機能を ON にします。
OFF : サブチャンネルセレクト機能を OFF にします。



6. [CUE] ボタンを押します。
7. [▲SET] ボタンを押して “S-CH” の表示にします。
8. [CUE] ボタンを押します。
9. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して、サブチャンネルにしたいチャンネルを選択します。



10. [CUE] ボタンを押します。
11. [▲SET] ボタンを押して “S-GP” の表示にします。
12. [CUE] ボタンを押します。
13. [On▼] または [▲SET] ボタンを押して、仲間同士で決めたグループコード (GP01 ~ GP50) にあわせませす。
14. PTT (通話) スイッチを押して終了です。



サブチャンネルセレクト機能をやめる

1. 上記と同じ操作を行い、手順 5 で “OFF” の表示にします。
2. PTT (通話) スイッチを押します。
サブチャンネルセレクト機能が OFF になります。

SRS220/SRS210

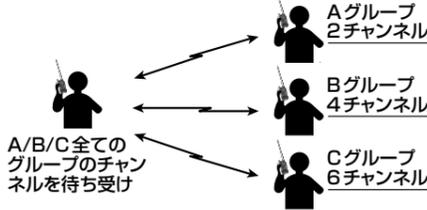
取扱説明書（応用編）

EN011U050 (2008O-AS)

マルチチャンネル待ち受け機能

複数のチャンネルをスキャンしながら待ち受けを行い、信号が入ったチャンネルで通話を行うことができます。

この機能を使って、グループで異なるチャンネルを使用している状況で、グループの全てのチャンネルをモニターしながら通話を行うことができます。



注意 マルチチャンネル待ち受け中は、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。

待ち受け受信するチャンネルを決める

待ち受け受信するチャンネルを最大10チャンネル登録できます。

- 待ち受け受信したいチャンネルにあわせて、[CUE] ボタンと[▲SET] ボタンを同時に押します。待ち受けチャンネルとして登録され、画面左上に「■」が表示されます。
- 同じ操作を繰り返して、待ち受け受信したいチャンネル全てを登録します。



補足 ・待ち受け受信の登録をしたチャンネルは、もう一度[CUE] ボタンと[▲SET] ボタンを同時に押すと登録を解除できます。
・画面の「■」が消えます。

待ち受け受信をする

- 電源を切ります。
- [on▼] ボタンと[CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。
・待ち受け登録されている全てのチャンネルで信号の待ち受け受信がスタートします。
・「MCW」が表示され「■」が点滅します。
- 信号を受信した時は受信したチャンネルで待ち受けが止まり、相手の話を聞くことができます。チャンネルが表示されている間にPTT（通話）スイッチを押すと送信することができます。



補足 一時的に待ち受け受信したくないチャンネルがあるときは、[on▼] または[▲SET] ボタンを押してチャンネルを選び、続けて[CUE] ボタンと[▲SET] ボタンを同時に押すと、一時的に待ち受け受信の対象から外れます。同じ操作を繰り返すか、一度電源を切ると、再び待ち受け受信の対象に戻ります。

待ち受け受信中の送信チャンネルの変更

待ち受け受信中にPTT（通話）スイッチを押すと、前回信号を受信したチャンネルで送信しますが、他のチャンネルで送信することもできます。

●待ち受け登録されているチャンネルから選ぶ

- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して、送信したいチャンネルを選びます。
- チャンネル表示が「MCW」になる前にPTT(通話)スイッチを押すと、選んだチャンネルで送信します。

●あらかじめ決めたチャンネルで送信する

- 電源を切ります。
- [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「TXCH」の表示にして[CUE] ボタンを押します。「TXCH」が表示されない場合は「SETM」を表示させて「ALL」に設定すると表示されるようになります。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「S-CH」の表示にして[CUE] ボタンを押します。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「S-CH」の表示にして[CUE] ボタンを押します。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して、送信するチャンネルを選びます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。



マルチチャンネル待ち受け受信をやめる

- 電源を切ります。
- [on▼] ボタンと[CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。マルチチャンネル待ち受け機能がOFFになります。

個別呼び出し機能

個別呼び出し機能では、次の3種類の呼び出しができます。

- 個別呼び出し
01～99の中から、指定したIDに設定している局だけを呼び出します。
- グループ呼び出し
10グループ（グループID G0～G9）の中から、指定したグループIDに設定している局だけを呼び出します。
- 全局一斉呼び出し（ALL）
全ての局を一斉に呼び出します。

補足 ・着信音を鳴らして呼び出しを知らせることもできます。ただし、全局一斉呼び出し（ALL）の場合アラームはなりません。
・あらかじめ、仲間同士で個別呼び出しIDとグループナンバーを設定してください。
・電波の弱い場所やノイズの多い場所では、個別呼び出し機能が動作しない場合があります。

注意 個別呼び出しを使用中は、オートチャンネルセレクト機能やサブチャンネルセレクト機能は使用できません。

個別呼び出しを使えるようにする

- 電源を切ります。
- [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「個 SELC」の表示にします。「個 SELC」が表示されない場合は「SETM」を表示させて「ALL」に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して、個別呼び出し機能で運用できる最大局数を選択します。
20 : 個別コード「01」～「20」までの20局
99 : 個別コード「01」～「99」までの99局
OFF : 個別呼び出し機能は動作しません。
- PTT（通話）スイッチを押します。画面に「個」が表示して個別呼び出し機能機能が動作します。



自分の個別IDやグループIDを設定する

個別呼び出し機能で使用する「自分の個別ID」と「自分のグループID」を設定します。

注意 あらかじめ、上記の「個別呼び出しを使えるようにする」の操作で、「OFF」以外の設定にしてください。

- 電源を切ります。
- [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「個 ID」または「個 GRP」の表示にします。

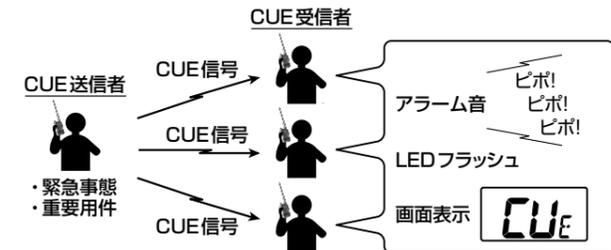
■ ID : 自分の個別IDを設定する時

■ GRP : 自分のグループIDを設定する時

- [CUE] ボタンを押します。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して個別IDまたはグループIDを選択します。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

CUE（キュー）機能による緊急アラーム

グループ全員のトランシーバーにアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。この機能は受信側の音量ボリュームに関係なく、設定した音量でアラームが鳴り、同時にLEDインジケータがオレンジ色で点滅して、画面に「CUE」を表示させますので、相手が音量を下げたまま忘れていた場合でも、確実に緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。CUEを受信した時にトランシーバーの近くにいなかった場合でも、「CUE」の表示とLEDインジケータの点滅が継続しますので、戻った時に緊急着信があったことがわかります。



個別呼び出しをする

- [on▼] ボタンと[CUE] ボタンを同時に押します。画面に「SCAL」が表示されます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して、呼び出したい相手の個別IDやグループIDを選びます。全ての局を一斉に呼び出したい時は「AL」を選びます。



■ SC 20 : 個別ID「20」の相手を呼び出す時

■ SC G9 : グループID「G9」のグループ全員を呼び出す時

■ SC AL : 全ての局を呼び出す時

- PTT（通話）スイッチを押します。上記で選んだ相手を呼び出して、通常の画面に戻ります。

個別呼び出しを受けた時の動作

個別呼び出しとグループ呼び出しの場合、画面にチャンネルと呼び出してきた相手の個別IDまたはグループIDが交互に表示します。

●個別呼び出しを受けた時

チャンネルと呼び出してきた局の個別IDを交互に表示します。



●グループ呼び出しを受けた時

チャンネルと呼び出してきたグループIDを交互に表示します。



●全局一斉呼び出しを受けた時

画面表示はチャンネルのままで、着信音も鳴りません。



呼び出しを受けた後にPTT（通話）スイッチを押すと、通話することができます。

個別呼び出しを受けた時に着信音を鳴らす

個別呼び出しを受けた時に、着信音を鳴らすことができます。

- 電源を切ります。
- [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「個 BEEP」の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して、着信音を選択します。
1 / 2 / 3 : 着信音が鳴るパターンを3種類から選べます。ALLで呼ばれた時は、着信音は鳴りません。
OFF : 着信音は鳴らなくなります。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

CUEを信号を送出する

[CUE] ボタンを短押しすると、CUE信号を送出します。

CUEを信号を受信する

CUE信号を受信するとアラームが鳴り、画面表示とLEDインジケータの点滅で知らせます。

補足 ・[CUE] ボタンを長押しすると、CUE信号を受信してもアラーム音が鳴らなくなります。再度[CUE] ボタンを長押しすると、アラーム音が鳴るようになります。
・PTT（通話）スイッチを押すと、CUE（キュー）を送信した相手と通話することができます。
・「CUE」の表示とLEDインジケータの点滅は、いずれかのボタンを押すと元の状態に戻ります。

注意 イヤホンやヘッドセットを接続していても、トランシーバー本体のスピーカーからアラームが鳴ります。

アラームで緊急を知らせる
(エマージェンシー機能)

緊急時に最大音量で「ピーッ」とアラーム音を鳴らし続けて周囲に緊急事態を知らせます。

注意 ・オートチャンネルセレクト機能が動作中は、エマージェンシー機能は動作しません。
・イヤホンやヘッドセットを接続していても、トランシーバー本体のスピーカーからアラームが鳴ります。

エマージェンシー機能を使えるようにする

- 電源を切ります。
- [CUE] ボタンと[▲SET] ボタン押しながら電源を入れます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して、「CU-EC」を選びます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。



緊急を知らせる

[CUE] ボタンを1秒以上押し続けます。アラーム音が鳴り続け、画面の表示が点滅します。

補足 ・PTT（通話）スイッチを押すとアラーム音を中断して通話することができます。
・[CUE] ボタンを1秒以上押すか、電源を切るとエマージェンシー機能の動作は停止します。



エマージェンシー機能の動作を変える

アラーム音と同時に自動で送信したり、LEDインジケータを点滅させたり、また、緊急連絡用チャンネルに自動で移動することができます。

- 電源を切ります。
- [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「EMGC」の表示にして、[CUE] ボタンを押します。「EMGC」が表示されない場合は「SETM」を表示させて「ALL」に設定すると表示されるようになります。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押してエマージェンシー機能の動作を選びます。



ALAM : 緊急アラーム音で緊急を知らせます。

CH : アラーム音は鳴らさずに、緊急連絡用チャンネルに自動で切り替わります。

～緊急連絡用チャンネルの設定方法～

緊急連絡用チャンネルにしたいチャンネルにあわせてから、上記1.～の操作を行うと、そのチャンネルが緊急連絡用チャンネルに設定されます。

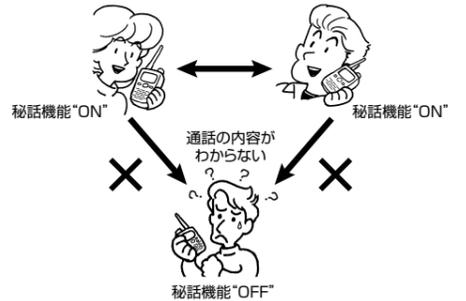
CL : 緊急アラーム音を鳴らし、自動的に送信状態になります。

CL-LT : 緊急アラーム音を鳴らし、自動的に送信状態になり、LEDインジケータを点滅表示させます。

- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

秘話機能

秘話機能を設定した仲間同士だけが通話内容を聞くことができます。秘話機能を設定していない人は通話内容を聞くことができなくなります。



- 電源を切ります。
- [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「秘 SCR」の表示にして、[CUE] ボタンを押します。「秘 SCR」が表示されない場合は「SETM」を表示させて「ALL」に設定すると表示されるようになります。
- [on▼] または[▲SET] ボタンを押して「1」または「2」の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。画面に「秘」が表示して秘話機能が動作します。



秘話機能をやめる

- 上記と同じ操作を行い、手順4で「OFF」の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。秘話機能がOFFになります。

仲間と通話可能かを常にチェックする

コールバック機能

グループモード時にコールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」を電子音とアイコン表示で常にチェックしながら通話できます。

- 注意**
- ・コールバック機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。
 - ・コールバック機能は、中継チャンネルでは動作しません。



1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“CLBK”の表示にします。
“CLBK”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
6. [CUE] ボタンを押します。
7. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“GRP”の表示にします。
8. [CUE] ボタンを押します。
9. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
10. [CUE] ボタンを押して、続けて [▲SET] ボタンを押します。
11. “GRCD”の表示になりますので [CUE] ボタンを押します。
12. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して、仲間同士で決めたグループコード (GP01～GP50) または DCS コード (D017～D754) にあわせて [CUE] ボタンを押します。
13. PTT (通話) スイッチを押します。

コールバック機能が動作して、画面に“圏内”が点滅表示します。相手が通話可能な状態になると“圏内”の点滅が点灯に変わります。

通話可能かどうかは、電子音とディスプレイの表示で確認できます。

状況	電子音	アイコン表示
通話可能 ・相手と通話できる範囲にいる ・相手の電源が入っている	圏内になった時に一度だけ“ビビッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
通話不可能 ・相手と通話できない場所にいる ・相手の電源が切れている	圏外になった時に一度だけ“ププッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点滅する

- 補足**
- ・同じチャンネルで同じグループコードや DCS コードが他の使用者に使われている時は、“グループモードの設定”を参照して、仲間同士で他のグループ番号に切り替えてください。
 - ・他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態になり、通話できません。

コールバック機能をやめる

1. 上記の手順 1～5 を行い、手順 5 で“OFF”の表示にします。
2. PTT (通話) スイッチを押します。
コールバック機能が OFF になります。

PTT ホールド機能

一度 PTT (通話) スイッチを押すと、再び押すまで送信状態を維持します。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“PTT”の表示にします。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“HOLD”の表示にします。
NOR : PTT スイッチを押している間送信状態になります。
HOLD : 一度 PTT スイッチを押すと、再び PTT スイッチを押すまで送信状態を続けます。
OFF : PTT スイッチが無効になり送信できません。
6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。

補足 連続して 3 分間送信すると、送信が自動的に停止します。送信が停止する 30 秒前から画面にカウントダウンが表示されます。また、送信が停止する 10 秒前に「ビビッ」と警告音が鳴ります。

ARTS 機能

ARTS 機能用の 10 種類の DCS コードの中から、使用可能な DCS コードを自動的に選択して「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」を電子音とアイコン表示で常にチェックしながら通話できます。

- 注意**
- ・ARTS 機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。
 - ・ARTS 機能は、中継チャンネルでは動作しません。



仲間同士の全てのトランシーバーを同じチャンネルにあわせてから、全てのトランシーバーで以下の操作を行います。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“ARTS”の表示にします。
“ARTS”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
6. PTT (通話) スイッチを押します。
ARTS 機能が ON になり、画面に“SYNC”が表示されます。
7. いずれか 1台の PTT (通話) スイッチを押します。
仲間の全てのトランシーバーが自動で使用可能な DCS コードに設定され、チャンネルの右側に“AT”が表示されます。

ARTS 機能が動作して、画面に“圏内”が点滅表示します。相手が通話可能な状態になると“圏内”の点滅が点灯に変わります。

通話可能かどうかは、電子音とディスプレイの表示で確認できます。

状況	電子音	アイコン表示
通話可能 ・相手と通話できる範囲にいる ・相手の電源が入っている	圏内になった時に一度だけ“ビビッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
通話不可能 ・相手と通話できない場所にいる ・相手の電源が切れている	圏外になった時に一度だけ“ププッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点滅する

ARTS 機能をやめる

1. 上記の手順 1～5 を行い、手順 5 で“OFF”の表示にします。
2. PTT (通話) スイッチを押します。
ARTS 機能が OFF になります。

- 補足**
- ・電源を切っても ARTS 機能は OFF になりません。次に電源を入れた時は、前回設定された DCS コードで ARTS 機能が動作します。
 - ・仲間を追加する時は、上記の“ARTS 機能をやめる”の操作を行い手順 5 で一度 OFF にした後に続けて ON にします。その後手順 6 では PTT (通話) スイッチを押した後 1 秒以内に [▲SET] を押してください。

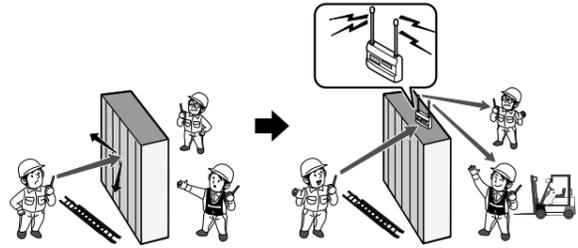
受信専用モード (送信禁止)

送信を禁止して受信専用にできます。PTT (通話) スイッチを押しても“ERR”が表示され「ブーブ」と警告音が鳴り送信できません。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“PTT”の表示にします。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“OFF”の表示にします。
NOR : PTT スイッチを押している間送信状態になります。
HOLD : 一度 PTT スイッチを押すと、再び PTT スイッチを押すまで送信状態を続けます。
OFF : PTT スイッチが無効になり送信できません。
6. PTT (通話) スイッチを押して終了です。

通話エリアを拡大する (中継器対応)

通話相手との間にビルなどの障害物がある場合や相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できない時は、本機対応の中継器を中間点に設置することで、通話エリアを広げることができます。使用できる中継器については、本機を購入した販売店、または当社国内営業部にお問い合わせください。



- 注意**
- ・中継チャンネルを使用中は、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。

中継機能を使えるようにする

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“RPCH”の表示にします。
“RPCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
4. [CUE] ボタンを押します。
5. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
6. PTT (通話) スイッチを押します。
中継機能用のチャンネル (10～18, 12～29) が使えるようになります。



通話のしかた

1. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して、中継器と同じチャンネル番号にあわせてます。
2. “基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

- 補足**
- ・グループモードを使用することができます (中継器と同じグループ番号にあわせてます)。
 - ・当社指定の中継器のみ使用可能です。

中継器を使わない設定に戻す

1. 上記の「中継器を使えるようにする」と同じ操作を行い、手順 5 で“OFF”の表示にします。
2. PTT (通話) スイッチを押します。
以上で、中継器を使わない (中継器用のチャンネルを表示しない) ようになります。

モニター機能

相手の電波が弱くて音声が届かずに聞こえる場合“モニター機能”を使用すると、相手の音声が届きやすくなる場合があります。

1. 電源を切ります。
2. [on▼] と [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
・モニター機能が動作します。
・信号が無い時は常に“ザー”という雑音が聞こえます。
3. 電源を切るとモニター機能は解除されます。

[CUE] ボタンの機能を変える

[CUE] ボタンには、緊急連絡や重要な用件の通知を行う“CUE 機能”が割り当てられていますが、その他の機能に変更することができます。

1. 電源を切ります。
2. [CUE] ボタンと [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して、割り当てたい機能の表示にします。

表示	機能	
	短押し	長押し
	CUE 信号を送出して、グループ全員のトランシーバーにアラームを鳴らして緊急連絡を通知します。	CUE 信号を受信した時に鳴るアラーム音を一時的に鳴らないようにできます。
	DCS コードを設定している場合、呼び出し音を鳴らして相手を呼び出します。	エマージェンシー機能が動作してアラーム音を鳴らして緊急事態を知らせます。
	相手の電波が弱くて音声が届かずに聞こえる場合、[CUE] ボタンを押している間、相手の音声が届きやすくなる場合があります。同時に信号強度を表示 (S メーター) します。信号が無い時は“ザー”という雑音が聞こえます。	
	受信中の音声を 3 分間ミュート (消音) します。	再び [CUE] ボタンを長押しするまで受信中の音声をミュート (消音) します。
	VOX 機能を一時的に ON/OFF します。あらかじめセットモード“VOX”を ON にしてください。[CUE] ボタンを押して OFF にすると“ー”が表示されます。	長押しで動作する機能はありません
	マルチチャンネル待受受信時に、あらかじめ決めておいたチャンネル (セットモード“S-CH”で設定したチャンネル) で送信します。	
	コールサイン (電子音) を送出します。電子音をセットモード“CLSG”で設定した回数鳴らして相手を呼び出します。	

4. PTT (通話) スイッチを押して終了です。

信号を探す (スキャン機能)

自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。グループモード使用時は、同じグループコードを含む信号を探します。信号を受信するとスキャンが一時停止します。また、信号がなくなると約 10 秒後に再びスキャンを開始します。

- 注意**
- ・スキャン機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は“OFF”になります。

1. 電源を切ります。
2. [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“SCAN”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
“SCAN”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
4. [on▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
ON : スキャン機能を ON にします。
OFF : スキャン機能を OFF にします。
5. PTT (通話) スイッチを押して終了です。

スキャンを開始する

[on▼] ボタンを 1 秒以上押す：チャンネル番号の小さい方向にスキャン
[▲SET] ボタンを 1 秒以上押す：チャンネル番号の大きい方向にスキャン

- 補足**
- ・中継機能用チャンネルでスキャンを開始すると、中継機能用チャンネルだけをスキャンします。通常チャンネルでスキャンを開始すると、通常チャンネルだけをスキャンします。
 - ・スキャン中に [on▼] または [▲SET] ボタンを押すと、スキャンする方向が変わります。

スキャンをやめる

PTT (通話) スイッチまたは [CUE] ボタンを押すとスキャンが停止します。